



NEXT POWERS

次なる才能にエールを。

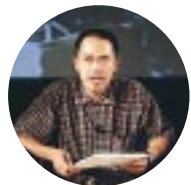
才能はいつ、波間から現われるかわからない。しかも、それはほんの一瞬のことかもしれない。だとして、グランシップは注意深く波間を見守り、絶好のタイミングでそれを掬い取り、そして、自らが中心となって、あるいはここを拠点として、彼らに確かなエールを送りたいと思う。チャンスとは決して才能の持ち主のためだけに向けられた言葉ではない。稀有の才能を見いだし、その開花に立ち合う。そうした楽しみに出会うチャンスを、我々もまた逃してはならない――。

単なる登龍門には終わらない。 sing'99の刺激はさらに続く。

次世代のデジタルクリエイターに発信するコンペティション＆ワークショップsing'99が10月、グランシップで開催された。3つのカテゴリーからなるコンペには多くの作品が寄せられ、江並直美、日比野克彦、中島信也というビッグ3が審査にあたり、入賞者が決定した。さらにカテゴリーの一つであるグランシップ・プロモーション・アイデアコンテストでは、入賞者による公開プレゼンテーションの後、最優秀グランプリを選出。その後のワークショップでは、3氏によるボスターの実制作ライブも展開されるなど、会場は沸きに沸いた。およそ7時間という長丁場にもかかわらず、集まった若きエレクトロ・ワスデザイナーたちの好奇心は渇くことを知らず、その眼は終始壇上に釘づけとなった。実はその日には、もう一つ、うれしいサプライズがあった。sing'99も含めたビッグイベント「デジタルグランボヤッジ」でナビゲーターを務め、自らもデジタルアートの新作をグランシップにて発表した藤井フミヤ氏が予定外の参加を果たしてくれたのである。そして、「こんなに面白いコンペ



江並直美氏「CGアート部門のグランプリは3次元的な作品が多い中、あえて平面的なものを作ったという点を評価。既成概念を拭えば、電子メディアの世界はもっと広がるはず」



中島信也氏「プロモーション～のコンペには、トンチの利いたものがくて楽しかった。ただそれはアイデアのタネみたいなもの。技術でそれカタチにしていけることも大事」



日比野克彦氏「singのような、地域と空間のコラボレーションによるオリジナリティあるカルチャーの発信は、今後ますます求められていくと思う」

になるなんて思ってもみなかった。参加者に学生が多いのも非常にうれしいコメント。

また、江並氏が「1回目にしては大成功。こういつことはやり続けていくことに意味があるから、ぜひ来年も」と言えば、山本肇「グランシップ館長も、グランシップが若い人たちのエネルギーでこんなに楽しく盛り上がったことを主催者として嬉しく思う。この気運を来年、再来年とつなげていきたい」と語り、会場から大きな拍手が起った。

授賞式が済めば終わり、のコンペはどこにだつてある。しかし、singは決してそうではない。コンペをきっかけに新しい活動を生んでいく。そこに大きな意味がある。しかも、その

新しい活動の主役はネクスト・ジェネレーションにほかならない。次こそはと、2000年のsingに向けて、早くもアイデアのヒントをクリックしている。そんな若者もすでにいるかもしれない。



このポスターはsing'99のワークショップにおいて、審査員である江並、日比野、中島の3氏によって制作されたもの。

グランシップ・恋・輝橋

■12月24日(金) PM5:30 開場(予定)
■大ホール・海

sing'99 入賞者 敬称略)

【グランシップ・プロモーション・アイデアコンテスト】

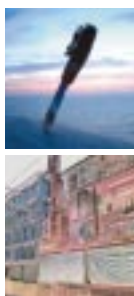
最優秀グランプリ 輝橋(内海里美、伊藤辰巳、渡会真矢、江並直美)、好奇心を救出します「ウォルナット・アーネーション・スタジオ」日比野克彦賞、グランシップF.C.その問題、勝手に白黒つけまじょう「河原崎祐三」中島信也賞、85万円のお釣りがくるイベント思いつきました「望月やすこ」藤井フミヤ賞、灯台になるう「小田和枝」静岡新聞社・SBS静岡放送賞、1億2000万人の幸せ創造「松崎誠」グランシップ賞つなげるつながら「コシバズ」

【デジタル作品コンテスト】

大人の部 最優秀グランプリ、21世紀生き残り新聞「林ゆかり、小林寿子、宗野梨江、山本敦子」江並直美賞、アルゴリズムの船「松永光太」日比野克彦賞、御満悦「内藤裕之」中島信也賞、Future Shop「石川正人、藤井フミヤ賞、Future City」渡辺雅貴、グランシップ賞、フシギドワッペン「石原梨乃、小澤綾、藤井亜矢子、堀江真梨子」子供の部 静岡新聞社・SBS静岡放送賞、未来より地球を「田中進

【デジタルフォトコンテスト】

大人の部 最優秀グランプリ「無題」藤浪顕夫「写真上(部分)」子供の部 グランシップ・静岡新聞社・SBS静岡放送賞、Silen



sing'99: Shizuoka Intermedia Next Generation 99

夜、ひっそりと静まりかえ返ったグランシップの大ホールに、不意にあふれんばかりの光が降ってきたら、どんなに素敵だろう。それはどんなにロマンチックな光景だろう…。そんな思いから、一つの企画「輝橋(きはし)は生まれた。そして、sing'99のグランシップ・プロモーション・アイデアコンテストで最優秀グランプリを受賞。発案者である女性とそれをサポートした二人は、中学校の同級生だった。

「思いつきはいつでもシンプルだったんです。それがこんなことになるつとは…」(内海)張本人は喜び半分、戸惑い半分の様子である。というのも、この企画が単にアイデアのままで終わらず、自分たちのチカラでちゃんと実現させなければならぬいからだ。「コンペでは後のことまで考える余裕がありません。いざ実行!の段階になって、少しあせってます(渡会)」。結局、実現できるかどうかは、技術担当の僕の肩にかかっている。プレイシャーはかなりのものですよ(伊藤)。

そんな本人たちの不安をよそに、12月24日のクリスマス・イヴの夜、大ホールで行なわれることが決定。準備も着々(?)と進んでいる。

「今までグランシップは自分とはあまり関わりのない場所だと思っていたけれど、この数か月でとても身近な空間になりました。ぜひ、これを成功させて、同世代の人たちを含めて大勢の人たちにほんの少しでも感動してもらえたら、と思います(内海)」

伊藤辰巳 Tatsumi Ito
技術的な部分を担当する。プレゼンテーションでは白衣を着て活躍。ワークショップで制作されたポスターにもメインキャラクターとして登場。

イヴの夜、彼らのアイデアがカタチになる。それはまるで雪のように。大ホールに降る光たち。

渡会真矢 Shinya Watarai
中学校の同級生である3人のうち、唯一の社会人。システム会社にてシステム・インテグレーターを務める。今回のアイデアを企画書としてまとめた。

内海里美 Satomi Utsumi
現在、常葉学園大学の3年生。ある先生の「静岡県は文化不毛の地だ」という言葉に発奮し、今回のコンペに取り組んだ。

演劇

SPAC（財団法人静岡県舞台芸術センター）の専属劇団SPACカンパニーが設立されて、すでに2年が過ぎた。公共団体が抱える劇団・舞踊団は、日本に幾つかあるものの、その数は決して多くはない。芸術総監督に鈴木忠志氏、SCOTや利賀フェスティバルなどで知られた現代演劇の第一人者である。そして、活動の拠点は、有度山にある静岡県舞台芸術公園とグランシップ内の静岡芸術劇場と聞くと、ずいぶん恵まれてるじゃないかと思うかもしれないが、恵まれているのはSPACに関わる人たちだけではない。

というのも、SPACでは、自分たちの本来の活動とは別に、さまざまな機会を設け、地域の舞台芸術活動をバックアップし、人材育成の手助けをしているからである。たとえば、専用宿泊施設に泊まり込み、基礎的な身体訓練やダンスのワークショップに参加できるという「舞台芸術セミナー」。また、「野外劇場フェスティ



10月にもグランシップ静岡芸術劇場においてトレーニングと『ディオニュソス』の稽古が公開された。

心身を鍛え、感覚を研ぎ澄まします。舞台の上で、この静岡で。



バル」では、県内の劇団、バレエ団、ダンスグループなどが芸術公園の野外劇場にて上演。これをSPACの照明や音響などの技術スタッフがサポートした。さらに随時、公開稽古も実施し、スズキ・メソッドと呼ばれる独特のトレーニング、舞台創造のプロセスなどを公開している。

これまで演劇を本気でやりたいと思っても、身近なところにプロの演劇集団は存在しなかった。上京しなくてはその夢が叶えられなかった人々にとって、それは一条の光明、具体的な道の一つである。叩く門戸がすぐそばにある、ということは、もはやチャンスに恵まれないなどという言い訳は通用しない、ということでもある。もちろん、地元の集団だからといって、タ力をくくってはいられない。事実、県外からその門を叩く人も多く、次ページに登場する二人も県外出身者である。

二人とも2年前に初めて静岡にやってきた。自分の可能性を確かめたかった。とにかくやるだけやってみよう、そういう気持ちだったと口を揃える。

「スズキ・メソッド」というトレーニング方法も、プロの舞台の創り方というものも、とにかく初めてだったので新鮮でした。大森（密度の濃い稽古についていくのがやっとだったという。SPACとは個人として契約し、一応収入的には安定している。だからアマチュア劇団時代のようにバイトをする必要はなくなった。が、それ以前にそんな時間的余裕もまた、なくなった。

「専用の劇場があつて、稽古場があつて、毎日稽古に専念できる環境があつて、お金を払って観に来てくれるお客さんもある。恵まれてるからこそ、普通以上に頑張らなくてはと思うんです。大森」芝居というものを通して、いつも自分と向き合っていていられる。そういう環境に感謝しています（深見）

「プロであることを常に意識し、ときには自ら自分自身にプレッシャーをかける。SPACの他の役者を見て、ああ、この人はプロだな、自分はまだまだだな、と思うたりします。何より難しいのは、あるレベルをずっとキープし続けること。でも、プロならできなければ（深見）レベルの高い人とやっていると、すべてが勉強になる。それだけでも静岡にきた甲斐があります（大森）」

と、言葉はあくまでも謙虚な二人だが、舞台を見ればよくわかる。その内なるものは想像以上に大きく、熱い。

恵まれた環境だからこそ、頑張らなくては。プロを常に意識し、研鑽を重ねるのがプロだから。

大森 大介 Daisuke Omori
高校1年から6年間、大阪のアマチュア劇団に所属。高校時代の演劇部の顧問の先生の勧めで、SPACの門を叩いた。主な出演作に『シラノ・ド・ベルジュラック』（ロクサーヌ役）『しんしゃく 源氏物語』（未摘花の姫役）など、22才。大阪府生まれ。

深見 佳子 Yoshiko Fukami
桐朋学園演劇科で演劇を学んだ後、鈴木忠志氏率いるSCOTに参加。主な出演作に『流行歌劇カチカチ山』（兎役）『ロミオとジュリエット』（ジュリエット役）など、23才。茨城県生まれ。

静岡芸術劇場 週末日替わり公演

『リア王』SPACカンパニー 演出：鈴木忠志 客演：吉行和子
県民参加の体験創作劇場『シンデレラ』^{（新装版）} 演出：宮城聡 振付：竹内登志子 音楽：ロッシーニ
『シラノ・ド・ベルジュラック』 演出：鈴木忠志

昼 14:00 / 夜 19:00					
1月15日(土)	夜	リア王	23日(日)	昼	リア王
16日(日)	昼	リア王	28日(金)	夜	体験創作劇場『シンデレラ』
21日(金)	夜	シラノ・ド・ベルジュラック	29日(土)	昼	体験創作劇場『シンデレラ』
22日(土)	昼	シラノ・ド・ベルジュラック		夜	リア王
	夜	リア王	30日(日)	昼	リア王



シラノ・ド・ベルジュラック

クラシック音楽



木村礼子(ピアノ)
静岡市出身。ロンドン在住。第8回静岡県音楽コンクール1位。クロイツァー賞受賞。85年、ロータリー財団奨学生としてロンドン市立ギルドホール音楽演劇学院留学。ユーディ・メニューイン氏主宰のライブ・ミュージック・ナウに選ばれる。



増田万里子(バイオリン)
伊東市出身。イタリア在住。第10回静岡県音楽コンクール3位。武蔵野音楽学園にて非常勤講師を務め、90年渡欧。ザルツブルクモーツァルテウム音楽院にて最優秀学生に選ばれる。イタリアを拠点にソロのほか、室内楽分野において幅広く活動。



金谷昌治(チェロ)
清水市出身。第2回静岡県音楽コンクール1位。愛知県桑原賞受賞。第31回文化放送音楽コンクール文化放送音楽賞受賞。現在、福島大学教育学部助教授。上野学園大学音楽部講師。室内楽グループ「カメラータ・セシリア」主宰。



牧野正人(バリトン)
浜松市出身。第4回静岡県音楽コンクール1位。84日仏声楽コンクール1位。審査員特別賞受賞。第19回民音コンクール3位。第16回日伊声楽コンクール、シエナ大賞受賞。第23回ジローオペラ賞。現在、国立音楽大学講師。藤原歌劇団を代表するバリトン歌手。



青山智英子(メゾ・ソプラノ)
静岡市出身。第4回静岡県音楽コンクール2位。85文化庁派遣芸術家在外研修員としてミラノ留学。同年カルメンシスター新人賞1位。第15回ジローオペラ新人賞。現在、武蔵野音楽大学講師。東京芸術大学非常勤講師。二期会会員。



須川展也(サクソフォーン)
浜松市出身。第4回静岡県音楽コンクール3位。第51回日本音楽コンクール管弦楽部門1位なしの2位。第1回日本管打楽器コンクール・サクソフォン部門1位。現在、東京芸術大学講師。東京佼正ウインドオーケストラコンサートマスター。

芹澤佳司(ピアノ)
裾野市出身。第3回静岡県学生音楽コンクール中学生1位。第3回ABC新人コンサート最優秀賞受賞。第41回マリア・カナルス国際音楽コンクール2位。第2回プロコフィエフ国際コンクール2位。ウィーン国立音楽大学留学、首席で卒業。

この先輩たちに続け。 ふるさと凱旋、里帰りコンサート。

日本人の音楽家の海外での活躍を新聞記事などで知ると、どこか嬉しく、誇らしい気持ちになる。さらにプロフィールを見て、その人が静岡県の出身だったりすると、なおさらである。ごく普通の静岡県民がそのようなことから、後進の人々にとって先輩の活躍の様子は、どんな励ましの言葉よりも心強いに違いない。

さて、そんな稀有な才能に恵まれた彼ら——静岡から巣立ち、国内外で活躍し、我々を喜ばせ、後進の目標となる音楽家たち——が西暦2000年の新春、グランシップに会することとなった。クラシックに詳しい人なら、この顔ぶれを見て、ほほう、と頷かれることだろう。そして、

もしかしたら彼らの共通点をズバリ
と言い当ててしまつかもしれない。

実を言つと、このたびコンサートというカタチで里帰りを果たす7名はいずれも静岡県学生音楽コンクール委員会(SBS静岡放送・静岡新聞社、静岡県演奏家協会、静岡室内楽協会、静岡県オペラ協会)が主催する静岡県音楽コンクールまたは静岡県学生音楽コンクールにて過去に上位入賞を果たしている人々なのである。

静岡県音楽コンクールは残念ながら1989年をもって終了してしまつたが、静岡県学生音楽コンクールのほうには県内において最も権威ある音楽コンクールの一つにまで成長し、クラシック音楽を志す学生にとっては、まさ

に実力を試す絶好の場となっている。

そこで2000年にめでたく20回目を迎えるといふこのコンクールの功績を讃え、また、若い音楽家たちへの励みと演奏技術の向上の一翼を担うていただくため、グランシップが静岡県出の演奏家たちに慶びに満ちた新春の里帰りを願ひでたところ、いずれの方々も快諾してくださつた。

この大きなチャンスにその実力を発揮し、自らのジャンピングポイントとした同郷の演奏家たち。彼らが開くのは2000年の扉であり、また、クラシック界のNEXT POWERを迎える扉でもある。我々県民は、ひたすら耳を傾けるのみ、少し誇らしい気持ちで演奏を楽しむのみである。

静岡県音楽コンクール・静岡県学生音楽コンクール入賞者による

ふじのくに新春コンサート

Fujino Kuni New Year Concert

2000年1月5日(水)

■グランシップ中ホール・大地

■PM1:00開場 PM1:30開演

■全席自由(税込) 一般 3,000円 高校生以下 2,000円

3才未満のお子様の入場はご遠慮願います。

コンクールのために二つの曲を突きつめる。 それは入賞することよりも大事なことです。

98年に音楽の都ウィーンから帰ってきたばかりである。延べ5年間の留学生生活だつた。
「日本は音楽会など限定したスペースに出掛けて行つて音楽を楽しむでしよう。その分、まだ距離がある。でも、ウィーンは街全体が音楽、どこに行つても、誰でも歌つたり、弾いたりしてる。生活の中に(クラシック)音楽がしっかり根を下ろしているんですね」

日本人がわらべうたを口ずさむように、たとえば誰もが「赤とんぼ」や「荒城の月」を知っているように、ウィーンの人はオペラのストーリーやサレの部分を知っているといふ。演奏会のチケットの値段が安く、気軽に楽しめるせいも大いにある。「国のバックアップはかなりのものだと思います。マリア・テレジアの時代の、国の経済状態が悪いときもオペラだけはやめなかつたといひますからね。環境は大分異なりますが、私が1位をいただいた静岡県学生音楽コンクールも、我々音楽の道を志す者にとって一つのチャンス、一つの大きなバックアップだったことは確かです」

そして、生意気なようですが、と前置きしてから、コンクールは入賞することよりも、もつと自分にとって有意義なことがあると思ふんです、と語る。

「コンクールに出場するといふことは、一つの曲をどこまで突きつめることになりまふ。これがとても大事なんです。そのとき、その曲を自分はどう弾きたいのか、といふところから入るともつと面白い。という私も、まだまだ勉強中ですけれどね」

芹澤佳司 Keiji Serizawa
98年にオーストリア・ウィーンより帰国。大阪音楽大学講師を務める傍ら、裾野市にある実家にて週に一度ピアノを教えている。69年生まれ。なお、くわしいプロフィールは右頁下を参照。



富士を望み、海を眺めて。
五人の詩人たちによる
四十編の詩が完成した。

形式にとられない三行から五行の短い現代詩が鎖のように連なり、イメージの羽を広げていく連詩は、連句や連歌とはひと味違ったのびやかな楽しみに満ちている。近年はむしろ欧米の詩人たちの間で盛んに行なわれていると聞くが、静岡でもこの秋「連詩の会」が開催された。宗匠役に連詩を最初に試み、第一人者といわれる大岡信氏を迎え、氏を含めて日本とドイツの五人の詩人が参加。創作の場として選定されたのは、秋晴れの空に富士山を望み、眼下に清水港を湛える日本平である。

連詩の創作には丸々三日間が費やされた。今回は五行と三行の詩を交互に繰り返す形式をとったが、これについて大岡氏は後に「このフォームを基本としたことは大変意味あること」と振り返る。

巻かれた詩は順次、大岡氏が和紙に書き記していく。一編の詩作に要する時間はおよそ十五分。それを翻訳するのに十五分。母国語の異なる詩人同士が連詩を巻く場合、最も重要とされるのがこの翻訳者である。

「翻訳者として優秀であることはもちろん、常に詩人と同じ水準で談笑できる人が不可欠」と大岡氏も語る。

筆書きされた四十編の詩には、さまざまな視点、風景、モチーフが折り込まれた。しかし、なかには後の詩が前の詩とどういった繋がりをもち、詩なのか、一見してわからない詩もある。そこでそうした繋がりを解く場として、連詩が完成して三日後の文化の日、グランシップの交流ホールにて発表会なるものが開かれた。会場には、五人の詩人をはじめ、翻訳者二人も顔を揃えた。宗匠として大岡氏が、日本で初めてと断言している、すべての条件がきちと揃った形で連詩ができた」と挨拶。その後、連詩の一部が詩人たちによって解説された。

【第二編／第五編について】
まずは遠来の客を迎える
挨拶から。

俊太郎…実はこの起句は、当日作
たものではありません。開催の二日
前に宗匠（大岡氏）からファックスが
入り、最初の一篇はお前が用意して
おけと。ついでにはジメジメしたもので
はなく、遠来の客を明るく迎える挨拶
をというのでした。そういつわ
けて前の晩に書いたのがこれです。
詩の中の「ほくら」というのは我々日
本人、「君たち」はドイツの詩人二人
を指しています。「ほくらの子どもは
あがつくる」けれど、「君たちの子
どもが潜っている」というのは、日本
とドイツの間にある時差を表してい
ます。現場に行つて、もしもイメー
ジが違つようなら変えようと思つた
のですが、海と富士山が見える景色
がひたりだったのでそのまま使いま
した。

ウリ…ホテルからは眼下に駿河湾や
富士山が見えました。そして、前の
「夢の海」から私はゴジラを連想し
ました。子どものとき、テレビでゴ
ジラをよく見ていましたが、五十年
代のゴジラは今のような作りではな
く、ゴム製だったな、とふと思ひ出し
たんです。
順子…ウリの詩が、それでも…で終
わっていますが、たとえゴム製でもそ
れでも恐かったと。たぶんそう続
くのだろうと思ひましたので、それ
を受けて、叫び声をあげた」とし、そ
して、ゴム製イコル人工的なもの、と
いうことから、「ドライフラワー」とし
ました。

ドゥルス…前の薔薇は逆さに吊るさ
れては、魚が深海から引き上げら
れる逆さ向きのイメージと重なりま
す。デナーのときに深海魚の話が出
たので、ここで使つてみたのですが、
実は深海魚というのは私の詩によく
登場するモチーフでもあります。
信…ここまでの詩があまり明るく
ないので風通しをよくしよう、と「深
海」から静岡の海の「遠浅」にしまし
た。子どもは可愛けれど、未来の大
人だから可哀相だね、という皮肉
をちよつと込めています。



連詩の創作は、10月29日から3日間をかけて日本平ホテルにて行なわれた。
写真提供：静岡新聞社



大岡信

おおおか しのぶ
詩人。東京大学国文学科卒業。東京芸術大
学客員教授、日本芸術院会員。詩集に『
記憶と現在』『春 少女に』『蒼書』『紀
書』『詩苑文学賞』折々のつた』『菊池寛
賞』など。96年にマケドニアの「菊池寛
賞」にて金冠賞受賞。31年、静岡県三島市
生まれ。

- 一 笑いながら昇ってきた太陽の熱い視線に
山は夜の青白い顔を赤らめる
もうすぐぼくらの子どもあがつくる
君たちの子どもが潜っている夢の海から
闇にひそむ光 光にひそむ闇にみらびかれて
- 二 理性の眠りが怪獣を産む
時差ぼけのおかげでわたしは入江の深みに
ゴジラを見る――ゴム製、しかしそれでも：
それが途絶えたとき
人は花瓶にドライフラワーと化した彼女を生けて
その前で花のように着飾つて写真を撮つた
- 三 薔薇は逆さに吊るされて一夏を耐えた
人の耳には聞こえない叫び声をあげて
それが途絶えたとき
人は花瓶にドライフラワーと化した彼女を生けて
その前で花のように着飾つて写真を撮つた
- 四 海溝の眠りから引き出されて
風船のような深海魚のからだぐにやりとつぶれる
まらがった世界でしぼむ落下傘
- 五 遠浅の海辺で笑いさざめく人々
地球のあら側には飢えと苦悩
だがここは 犬猫と恋人たちの世界だ
鈴をきけばおかあちゃんのとこから
蕾のようなこぶしと突き出す未来の大人
- 六 ひとつの世紀の終りには
あつけらかんとゼロが連なる
聞こえてくるのはどんな歌声？
- 七 どこに行つてもこのわざとらしい興奮
「それで君、今年の大晦日に何するの？」
わたしは何もしませんよ。わたしの禁欲的な
三匹のブロンズの様のひそみにならつて
もう何も聞かない、見ない、何も言わない
- 八 樹液がのどを流れる
蟬のように兜虫のように
ぼくはおまえと つかみ さわり 愛する
- 九 詩のはかに、わたしたちを結んでいるものは一体なんだろう。
小さな蠅かな？暑いガラスの家を蠅がぶんぶん
飛びまわる、精密な眼鏡をかけて、ジグザグに横切つて。
ドイツ人のうなじから出発して、翻訳者の女性のこめかみと
空の航路からかすめ、日本人の禿頭に着陸する。
- 十 海上の小島の禿山に向かつて
朝の日射しが一直線に海を走る
ああ 金色のすてきな絨毯
- 十一 そしてそれから宵にはブロンズの畳の上で
高貴な技が披露される、
低い食卓で。ただただ感嘆あるのみ！
分かったような、分らないような。
鐘は上野か、浅草か
- 十二 ゴシックの尖塔がアルプスと競いあっている国で
さらに高みをめざす旋律を聴いた
それがときに人を冥界にいざなうことを知りながら
- 十三 なんとというガラガラ音、なんとというブリキ岳の騒音
城に石の小路に、そいつが、そのドイツの騎士が現れた
騎士のからだは岳詰になつて、内臓がそこに保存されている：
それに比べて、お、何という、何という衝撃
軽い昆虫の殻のようなサムライの甲冑と面を見たときは
- 十四 わたしたちの舞踊は地を摺り
あなだがたの舞踏は地から離れようとする
でも踊っているどらも忘れる 地面を休む
- 十五 墨痕淋漓 大きな紙に書いてゆく
アラビア語 ベンガル語は文字の絵画
筆の下で龍が踊り 大魚が潜る
書道はわれらお得意の芸と
日本人が誇るなら 井戸の中で跳ねる蛙さ
- 十六 「句稿」
「仏蘭西亭」
水に跳びこむ
蛙しあわせ
- 十七 眼下の波止場では帆船が白い翼を休めているはずだが
詩人たらしにとって港は言葉のうらにしかない
私たらし原子の内部で跳ね回り
銀河系の彼方で爆発する
極小と極大のはざまで歌う生き物

俊太郎 ウリ 信 順子 ドゥルス ドゥルス 信 俊太郎 ウリ 順子 ドゥルス 信 俊太郎 ウリ 順子 ドゥルス 信 俊太郎

谷川俊太郎

たかかわ じゅんたろう
詩人。都立豊多摩高校卒業。52年に第一
詩集『二十億光年の孤独』刊行。主な著
書に詩集『ことはあそびつた』『定義』『
エッセイ集』散文『言葉を中心に』『絵本
』『つば』『翻訳マザー・グースのつた』『
ピーナッツ』など。31年、東京都生まれ。



Uli Becker

ウリ・ベッカー
詩人。77年に最初の詩集を出版。90年、フ
ランクフルト「日本年」の記念企画の一つ
として開催の連詩の会に大岡信、谷川俊
太郎と共に参加。94年、98年にもドイツ
の連詩のイベントに参加している。53年、
ドイツハーゲン生まれ。

【第十編／第十四編について】
ときには芭蕉の句を拝借して。

信…前の詩でドゥルスが、日本人の禿
頭」という言葉を使つていて、そのま
まにしておいては可哀相なので笑。
「小島の禿山」に景色を変えました。
ウリ…実は今回初めて和室で和食を
いただきました。畳も箸も初めてで、
とくに箸に感動したので、前の金色
のすてきな絨毯」を受けて、「ブロン
ズの畳の上としながら、その感動を
詩にしました。最後の一行は芭蕉の
句を利用しています。

俊太郎…連詩というのはただ繋げる
だけでなく、流れを見なければいけ
ないんですね。で、眺めてみると、こ
れまでは目先にあるものが多い。こ
こで舞台を日本から外国に繋げよ
うと。前の詩に日本の地名が出てい
たので、違う場所に飛びたかった。そ
れでドイツの情景を入れたんです。
ドゥルス…これは日本の侍とドイツの
騎士の二つの鎧の違いを表したもので
すね。日本のものは軽くて昆虫の
ように、ドイツのものは重そう。実
は以前ニューヨークのメトロポリタン
美術館でこの二つの鎧が並んでいるの
を見たことがあったんです。

順子…前の詩は東と西の違いを甲冑
で書いていますので、私は肉体の違い
で書こうと。わたしたちの舞踊」は
能や歌舞伎に代表される摺り足で、
「あなたがたの舞踏」は美しく飛ぶパ
ンチである。しかし、無我の境地で
は、地面を体を「忘れ、そこに東西の
融合があるとしています。



Durs Grünbein

ドイツ・グリンパン
詩人。ドイツ言語及び文学アカデミー会
員。東欧共産圏崩壊後、欧州各地、南ア
ジア、アメリカ等を周遊。これまでに詩集
4冊、エッセイ集1冊を出版。ゲオルグ・
ビューヒナー賞をはじめ、マルブルク文
学賞等を受賞。62年、ドイツ・ドレスデン
生まれ。



高橋 順子
たかはし じゅんし
詩人。東京大学仏文科卒業。法政大学日
文科非常勤講師。主な著書に詩集『花ま
いらせず』『幸福な葉っぱ』『時の雨』。高橋
順子詩集成、評議、連句の楽しみ、エッ
セイ集『博愛好き』など。44年、千葉県生
まれ。



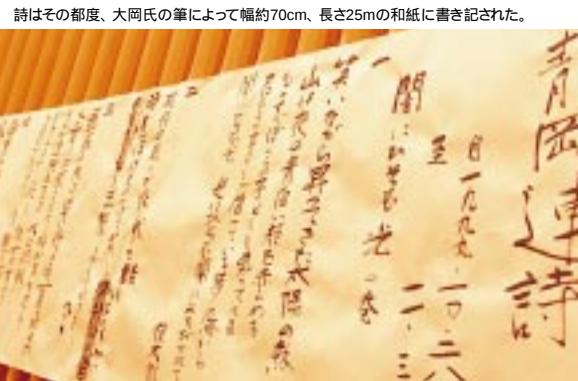
Eduard Klopfenstein

エドアルト・フロベニンシュタイン
文学博士。チューリヒ大学東洋学部日本
学科教授。85年と87年はベルリン、90年は
フランクフルト。93年チューリヒの国際連
詩の会に参加。独・英・日本語の翻訳、著
書多数。今回は日本語からドイツ語への
翻訳者として参加。



松下 たえ子
まつした たえこ
成蹊大学教授。ドイツ現代文学を専門と
する。68、70年、77、88年にドイツ滞在。
85年にベルリンで行なわれた連詩の会に
翻訳者として参加。今回もドイツ語から
日本語への翻訳者として参加。

十八	身体は宇宙にあっけなく消えてなくなるから、 哲学ができた。ただ愚か者だけが 滅亡の時も上機嫌で詩的な言葉にしがみついている。	ドウルス
十九	故人の言葉がときおりよみがえる この静かな浦に舟を浮かべ 富士の高嶺をながめて歌を詠んだ人の視線が 不思議なことにありありと空をよぎるのだ かれの顔つきは知るよしもないが	順子
二十	五千年前、楔形文字の賢人は言えり 「人生の喜びに結婚がある 考えてごらん、離婚もある」	信
二十一	木炭の一片はどうしてもグイヤにならない グイヤは手もなく炭に変わるっていうのに 「元氣」という名の動物園の雌のゴリラは 恋の病で体重が四十キロも減ったんだってさ あとはもうノーコメント	俊太郎
二十二	大成功の女実業家 つぎつぎに ブランド品で装う凱歌 服飾品の重さに釣り合い 肥満も進行	信
二十三	子どもと同じで、母なる自然もはばかりがあるところがありません。 巨木や、象の群れのなかで、広大な思考をするのが好きです。 もし口がきけさえしたら、自然のモットーは 「命はどれも同じ」でしょう。 自然の最初の独り言は人間です。	ドウルス
二十四	「猫は血をなめ 犬は血の前で待つ ゆえに犬は猫よりも文化的なり」と スヌービーは言った	順子
二十五	一体コミックスのなかの人種差別は 外の自由な文化風土での人種差別よりも小さいなものなのか。 そこではヴァイマルが自らのブーヒエンヴァルトの肩をもっている。 モットー。刺のない薔薇だって？ 高邁から滑稽へは、 ただの一步、野垂へも。	ウリ
二十六	バスワードを忘れてしまった恋人が抱けない恍惚の人 百二十歳で皺ひとつないデザイナー・チャイルド その名はかの懐かしいドリアン・グレイ	俊太郎
二十七	オルダス・ハックスリーの『すばらしき新世界』に チャタレー夫人の恋人は住めないように 「神曲」の天上界にマリリン・モンローは住めない セックス・シンボルはいつも儚い命 だからこそ不滅の幻影として君臨する	信
二十八	聞くところでは、ここへ詩を書きに来る人たらもいるそうだが エッチしに来る人たらもいる。ただ逞がいいことに 壁の厚さは『魔の山』なみ	ドウルス
二十九	揺り椅子でうつらうつらしていたおばあさんは 耳が熱くなって目をさました 「おじいさん あんたかとおもっただよ」 おばあさんは白い小さな壺に言いました 日の光が一条雲間から射しこんでいます	順子
三十	今日死んでいるものも、永遠にそのままとは言えない。 クロインの材料として蘇る一塊の凍土 そこからアイスキャンディの柄のかわりに一対の牙が突き出している。ウリ	ウリ
三十一	ディオラマの中でマンモスは身動きひとつしない そこで凍りついた時間を溶かすのは ガラスのこつら側にいるひとりの子ども やがて彼はひとつの時代の自画像を描くだろう おびただしい名詞と動詞と形容詞と仮定法を駆使した騙し絵で	俊太郎
三十二	本をひらくと 本をひらいて いる絵が描いてあつて その中でまた本がひらかれていて その本の中でわたしが本をひらいていて またその本のなかに…	順子
三十三	世界の背後に世界があるが、さらにもうひとつの世界が テレビスクリーンになって我がもの顔にしゃしゃりやる。 走査線は六百以上 『荒地』完全版の行数よりも多い！砂漠は ひろがる。オアシスはもうない、コマーシャルの島だけ。	ウリ
三十四	紙が舞う 紙が舞う 地上楽園のめづたい映像の氾濫 海辺のゴミ集積所 その名は『夢の島』 整地されて新たにまた 東京に拡張の夢	信
三十五	どんな海でも、遠くからじっと見つめていたことはなかった。 いつでも目で潜った、足の小指一本だけのこともあったが。 海藻もくらげも寒気も感じなかった。 目の人が一番恥ずかしいのはこれ。 みんなただの白昼夢、下半身麻痺の夢見る人。	ドウルス



発表会には5人の詩人と2人の翻訳者の全員が顔を揃えた。グランシップ6F交流会ホールにて。 詩はその都度、大岡氏の筆によって幅約70cm、長さ25mの和紙に書き記された。

【第三十二編〜第三十五編について】
テレビカメラの前で書いた詩。

俊太郎…ドウルスの著書にお祖父さ
んに連れられて行て見た「ディオラ
マ」に興味をもったというサセイが
あるので、彼の幼少時代をイメージ
して作りました。「ひとりの子ども」
はドウルスで、名詞と動詞と形容詞
と仮定法を駆使した」というのは詩
「騙し絵」は文学ですね。つまりリア
リスティックな絵ではなく、そこに文
学の違う形が見えてくる、というこ
とです。

順子…個人のことを受けるのは難し
いので、単純に「騙し絵」の部分に付
けました。あまり芸のない詩ですが、
芸があるとすれば、その本の中でわ
たしが本をひらいて」という部分
ですね。この世界は本のようなもの
かもしれない。そこまで読みこん
でくたさると嬉しいのですが、今回
は自分で説明しました笑。昔見た
キャンディの缶のイラストがヒントに
なっています。

ウリ…テレビカメラの前ですでに二
日間詩を書いていて、今まで閉ざされ
た世界で書いていたので、それはとて
も興味深い経験でした。最も長いと
される詩『荒地完全版』は四百五十
行くらいありますが、テレビの走
査線はそれ以上あるんですね。
信…「紙」というのは広告の紙です
ね。地上楽園」とは日本。『夢の島』
という名前は皮肉めいていて、「ミミ
よつて、夢の島」は拡がる。ただで、
人間の住む世界がどんな狭められ
ているという状況を謳っています。

ドウルス…この三日間の体験は素晴
らしかったが、海が見えいるのに海
には入れない、触れないのは残念なこ
とだと思いましたが、このような詩
にしました。



三十六

ウリ 君の名は日本語では「瓜」そして「売り」
子らの喜ぶ古い舌もじりの中で生きている
そんな無垢な耳と口の喜びもまたぼくらの絆

ウリに

俊太郎

三十七

口においしいものをいれた後で困るもの
お金をいれないと入れないトイレット
戸に鍵がない雪隠
ドアのない厠
ない便所

順子

三十八

省略の技！すべてのレトリックから解放された
三行詩のようなベルリンへの電報。
天気よし。食事よし。富士山白し。帰りの予定なし。

ウリ

三十九

それでも人はどこかへ行かねばならぬ どこか遠くへ
オルフェウスはエウリディケを冥界に奪われ
イザナギはイザナミを冥途に置き去りにした
闇の世界は女の光がただようところにはがいけない
男が一人も住んだことがないというのにはげに不思議

信

四十

死は重要ではない。この国でいいなのは美。
百年で十分だった——日本のヴェスヴィオの三十六景は
魔法にかけられ——工業地帯になった。

ドウルス

創作

一九九九年十月二十九日起
同月三十一日満尾

於

清水市日本平ホテル
詩人 谷川俊太郎

参加者

ウリ・ベッカー
高橋順子
ドウルス・グリエンバイン
大岡信
網訳者 エドゥアルド・クロッペンシュタイン
松下たえ子

発表

一九九九年十一月三日
グランシップ六階交流ホール

そして、音楽パフォーマンスも。

こつした詩の繋がりの謎解きの後には、完成した連詩をモチーフに作曲された楽曲のパフォーマンスも披露された。詩の世界に遊び、その創作の舞台裏をのぞき、再び言葉の世界から今度は音楽の世界へと広がるひとときに心躍らせるうちに、時間は瞬く間に過ぎていった。

「現場ではリレーのようにどんどん繋げていかなくては、という気持ちもあり、ほかの人の詩についてすべてわかってるわけではないんです。こうして本人からあらためて創作の背景を聞き、へえ、そつだったのか、とさらに深い部分でわかりあえたような気がしますね」と大岡氏。会場には、ぜひ、来年も、という声が早くも上がっていた。



連詩による音楽デザイン「言葉は存在の記憶」。演出・音楽デザイン／瀧井敬子、演奏／加藤亜依(パーカッション)、初鹿野剛(バトーン)、堀口彩衣子(小鼓・舞踊)、渡海千津子(ソプラノ) 写真提供：静岡新聞社

日比野 克彦

創造のスピード。

「絵を描き始めた頃は、自分が今描いている線の
一瞬後が読めなくて新鮮だった。

「ただ、最近では一瞬後の自分がほぼ読めたりする。
だから、意識が追いつけないぐらいのスピードは快感ですね」

どうにもなるコペン。

「この秋から冬にかけて、グランシップには
2つのビッグイベントが仕掛けられた。デジ
タルアートの「コペンション&ワークショップ
「singg」と、光とアートで彩る「グラン
シップ ミレニアム・ジャーク」 1999-
2000」である。そして、そのどちらのイベ
ントにも、アーティストとして、仕掛人とし
て、日比野克彦の名が見える。80年代、現
代アートの「ニュー・ジェネレーション」として登
場した彼は、今やその最前線でネクスト・
ジェネレーションを引き揚げる役目を担っ
ている。独特の疾走感で無限のフィールド
を駆けめぐる彼は、やはり今も時代の一番
前を走る姿がよく似合っている。

——秋にグランシップで行なわれた「singg



99」では、企画から参加され、「コンペティション」の審査員も務められましたが、いかがでしたか。

「JG」コンペなんて世の中にはいっぱいありますが、singの「ポーチ・ショウ・イン・ディ・コンテスト」は、かつてないコンペですね。普通は

（受賞）作品がどう使われ、どこに旅立っていくのか、というところに作家はほとんど関知しなくて、いい作品が世の中に本当に出ていけるかどうかはわからない。それはコンペの企画者のチカラ次第だったりする。だから、80年代後半から90年代の初めというのは、若い才能がいっぱいあったにもかかわらず、それを掬うだけの社会の保障がなかったんですね。自分も賞というものをきっかけにして世に出たわけだけれど、コンペが必ずしも作家にとっていいかどうかはわからない。それなら何か違うコンペがあってもいいのでは、という中で、「ポーチ・ショウ・イン」というコンペを設けたわけです。これは言ってみれば、自分の作品をどこに行かせたいか、どっというカタチで、どこに海に辿り着かせ

たいか、そういうことを含めて提案しなさいということですね。だから、参加するほうは大変ですよ。しかも審査をパスしたら、公開プレゼンテーションまである。そんなコンペはどこにもないですからね」

——応募作品をひと渡りご覧になって、どの部分に、時代の風を感じられましたか。「マルチメディア」という言葉があります。本当に一般の学生レベルでも、いろんな機材を使いこなせるだけのハードとそれに関する知識はありますね。たとえば、マーケティングやリサーチの意識って、10年前なら一般市民レベルではまず、なかったんじゃないかなって思っんです。せいせい政治家の人氣投票ぐらいの、そんなリサーチ程度でね。モノを展開する、企画するためのリサーチというものは最近でしょつ。「JG」のレジでは必ずお客さんを見て、20代女性、50代男性って打ちますからね。そういうことをみんな知ってる。だから、まずグランシップのいいところ悪いところを羅列して、ならばどっしたらいいかを冷静に考えて提案して

くる。全員が批評家というか、電通みたいなものでね（笑）。そのオマセぶりには本当に驚きました」

——選考にあたり、とくに「デジタル・オトのカテゴリー」などでは一部、該当作品なしでもいいのでは、という意見もあったようですが、日比野さんが自分も賞に育てられたようなところもあるから、とあきらまれ入賞作が決まったものもあるとお聞きしましたが。

「賞と一口に言っても、権威のあるものから新人の登龍門的な賞までいろいろあって、これは後者の、いわば奨励賞みたいなものですよね。まして第1回目だし。特別に突出したレベルでなくても可能性があるなら、たとえその可能性が1%だとしても、応援してあげようというのが、こいつの賞の役割だと思っんです。1等賞だから、必ず力を発揮して活躍するといっつわけでもないしね。自分だって、あのと賞をもらわなければ、どっなうていたかわからないな、というのがあるんです。それにね、自分がどれ

だけのチカラがあるかなんてのは、なかなか一人じゃ計れないですから。だから、こっいつつ場でいろんな人たちに批評してもらっ、こっいつことは意味がある。そうしないといくら才能がある人でもそれを磨くことはできないものですよ」

千年に一度の大晦日。

——日比野さんが創作される上で大切にされていることは、一体何でしょうか。

「僕がデジタルの世界に入るきっかけとなったのは、今回sing99でも一緒だった江並直美（さん）なんですけど、ね。新宿の喫茶店で会って、江並さんに「デジタルやらないっつて言われて、僕はすごくいいよって答えたんです。それは江並さんだからいいよって言うんですけど、もしも他の人だったら、答えはおそらく違ってた。あのヒゲ面の江並さんから関西弁で「日比野くん、ちょっとやってみいひんか？」と言われ



【ひびのかつひこ】アーティスト。東京芸術大学大学院修了。82年に日本グラフィック展大賞、83年、ADC賞最高賞、JACA展グランプリを受賞。86年にシドニー・ビエンナーレ、また95年にはヴェネチア・ビエンナーレに出品。国内外で個展・グループ展を多数開催のほか、商業デザイン、舞台美術、パフォーマンスなど、多岐に活躍。作品集に『KATSUHIKO HIBINO』『HIBINO LINE』『CD-ROM/INTERACTIVE EXHIBITION』など、著書に『ゲゲゲのピピピ』『8万文字の絵・表現することについて』などがある。58年、岐阜市生まれ。



年末年始にグランシップで開催される「グランシップ ミレニアム・ジャーニー 1999 - 2000」では、オリジナル原画を3階ロビー天井に投影。ひと味違うビビノワールドが楽しめる。写真は機材をチェックする日比野氏。

て、イケるんじゃないかなと。理屈じゃなく
てね。そういう触角をね、僕は大事にして
るんです。それから、スピード感ね。瞬発
力っていうものが自分らしさを出す要因で
あると思うんですよ」

——以前、著書の中で、描いてるスピード
が意識のスピードを追い越してしまっよう
な線が理想的である、というようなことを
おっしゃっていましたが、

「僕はせうかちだから、イメージしてるもの
を早くカタチにしたいと思うわけ。で、絵
を描き始めた頃は、自分が今描いている線
の一瞬後が読めなくて新鮮だったんだけど、
最近では一瞬後の自分がほぼ読めたり
する。だから、意識が追いつけないぐらいの
スピードは快感ですね。ただ、自分一人で
やる仕事に関しては、自分で好き勝手に、
ある意味でそのスピードを楽しみながらや
れるけれど、人との「コラボレーション」など、
団体でやる作業に関してはそういうわけに
もいかない。スピードを殺したり、上げたり
する、という、そういうギア調整はやっぱり
必要です。そういうテクニクみたいなもの
は経験や場数を踏むことによって自然に
身についたものですな」

——日比野さんの作品の中のほとんどに文
字が描かれています。そうした文字も含

めで、自分のライン、みたいなものは、早い時
期に見つけてらっしゃったのですか。

「どうなんだろう。筆跡があるように誰に
も自分の線はあるけれど、じゃあ、小さい
ときに今のような字で書いてたかというこ
とまた違うわけで。誰しもオリジナリティは
あるんだけれど、そのオリジナリティをちゃ
んと意識できるかどうか、その違いは大
きいですね。この部分が自分のオリジナリ
ティなんだ、と自己分析できるまでにはい
る試さないと。そうしないと自分では認
識できないものですからね」

——年末年始にかけてグランシップで行な
われる「ミレニアム・ジャーニー」で再びご参加い
ただけるといふことです。が、

「グランシップ3階の楕円形の湾曲した天井
を最初に見たときから、ここで何かやりた
いと思ってたんです。で、千年の節目に天井
画を描いたらどうだろうと。実際に天井
に描いちゃってもいいんだけど、山本さん
(グランシップ館長)が困るだろうから笑、
光で映し出すんですけどね。天井画といっ
つのは、教会でもお寺さんでも見られます
が、大抵遠い向こうの世界、まだ見ぬ世界
が描かれます。そこには人間は死んだら
どうなるのか、我々は一体どこから来たん
だろう、というものがある。だから、この節

目にグランシップの天井を見ながら、いろい
ろ考えていたきたいな、と思うわけです。

バードという劇場用の巨大スライドプロジェ
クターを使って32枚の絵を映し出すので
すが、1枚だいたい15秒として、約10分間の
ストーリーがそこにできあがるはず。す
1999年のストーリーと、2000年のス
トーリーと。ガラリと違った雰囲気にした
いと思ってますけどね。僕自身は2000
年という区切りに特別な感慨はないので
すが、ただ大晦日は好きなんですよね。お正
月になる瞬間が。何か大きな怪物が目の
前を通り過ぎたような気がして。だから、
今年は1000年に一度の大晦日のつもり
でちょっとドキドキできたらいいな、と思っ
ています」



Granship MILLENNIUM JOURNEY 1999 - 2000

グランシップ ミレニアム・ジャーニー 1999 - 2000

～ 光の千年紀 ～

1999年から2000年へ、この大きな節目を飾る光と音のファンタジー。日比野克彦氏オリジナル原画を
3階ロビー天井に投影。また、広場をイルミネーションが彩り、記念すべきミレニアムを祝福。

日比野克彦 Projector Project「いつも頭の上から見られている。」

■12月17日(金)～2000年1月5日(水) グランシップ3階ロビー

イルミネーションガーデン

■11月26日(金)～2000年1月10日(祝) 16:30～22:00 グランシップ広場

グランシップXmasシアター

■12月10日(金)～12日(日) 大ホール・海

■12月17日(金)～18日(土) 映像ホール、19日(日) 大ホール・海

■12月23日(祝) 大ホール・海、映像ホール

オープンコンサート

■12月12日(日)～19日(日)～23日(祝) 12:00～ 大ホール・海

Dancing Light Christmas ―クリスマスソングに乗って踊る光と色― (企画・照明デザイン:海藤春樹)

■12月17日(金)～19日(日)～23日(祝)～24日(金) 大ホール・海

音楽物語「スノーマン」コンサートについてはP25を、「グランシップ・恋・輝橋」についてはP6をご覧ください。